令和６年度「全国学力・学習状況調査」及び「佐賀県小・中学校学習状況調査」の結果についてのお知らせ

佐賀市立赤松小学校

４月に文部科学省による全国学力・学習状況調査（以下、全国調査）と、佐賀県教育委員会による佐賀県小・中学校学習状況調査（以下、県調査）を、それぞれ６年生と５年生を対象に実施しました。全国及び佐賀県内の義務教育の機会均等と水準向上を目的とした調査です。児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析を通して教育指導の充実と改善を図り、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上に役立てていきます。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■　**調査期日**

令和６年４月１８日（木）

■　**調査の対象学年**

全国調査：小学校第６学年児童　　県調査：小学校第５学年児童

■　**調査の内容**

＜全国調査＞

（１）　教科に関する調査（国語、算数）

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

（２）　生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 （例）国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的･物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

＜県調査＞

教科：国語、算数（前年度までの学習内容が出題範囲）

■調査結果及び考察について

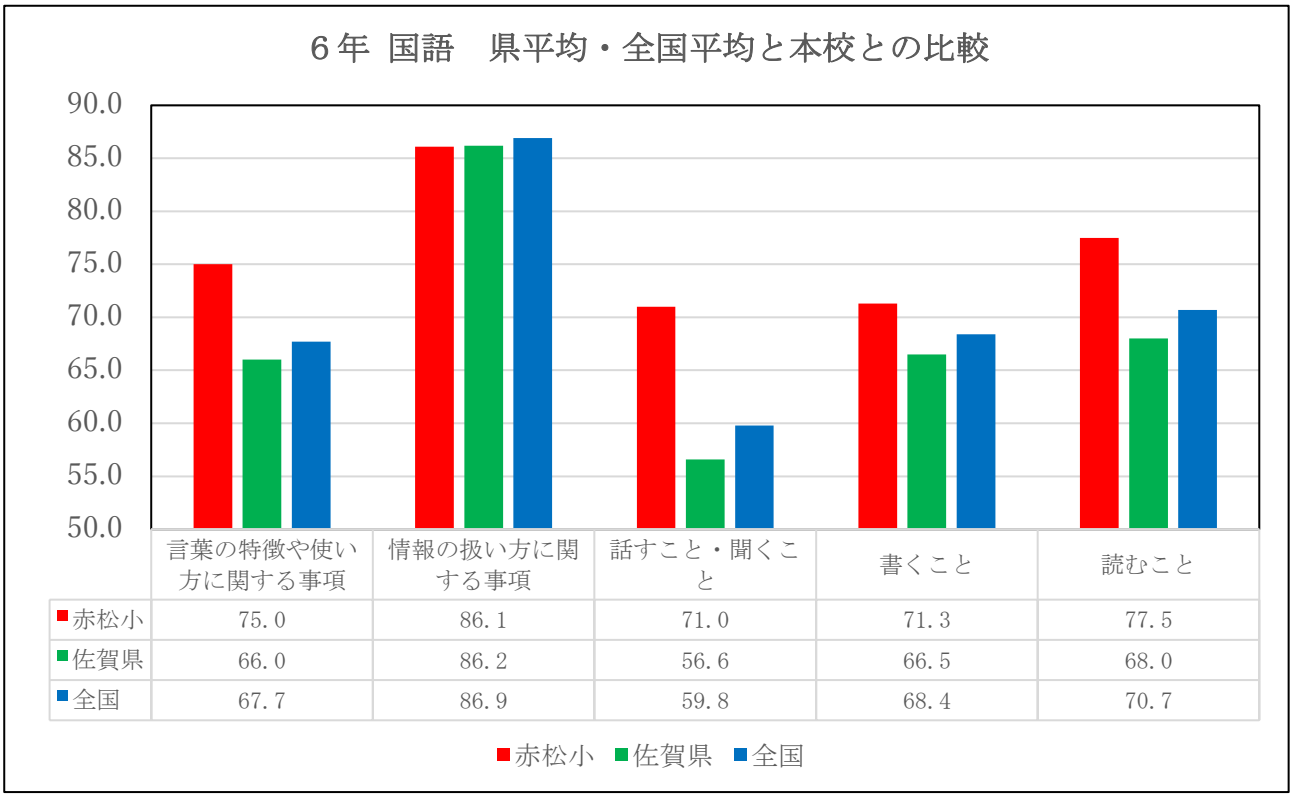
全国学力・学習状況調査及び県調査は、対象は６年生及び５年生、教科は国語と算数です。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。このように、限られた学年と教科及び出題範囲です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

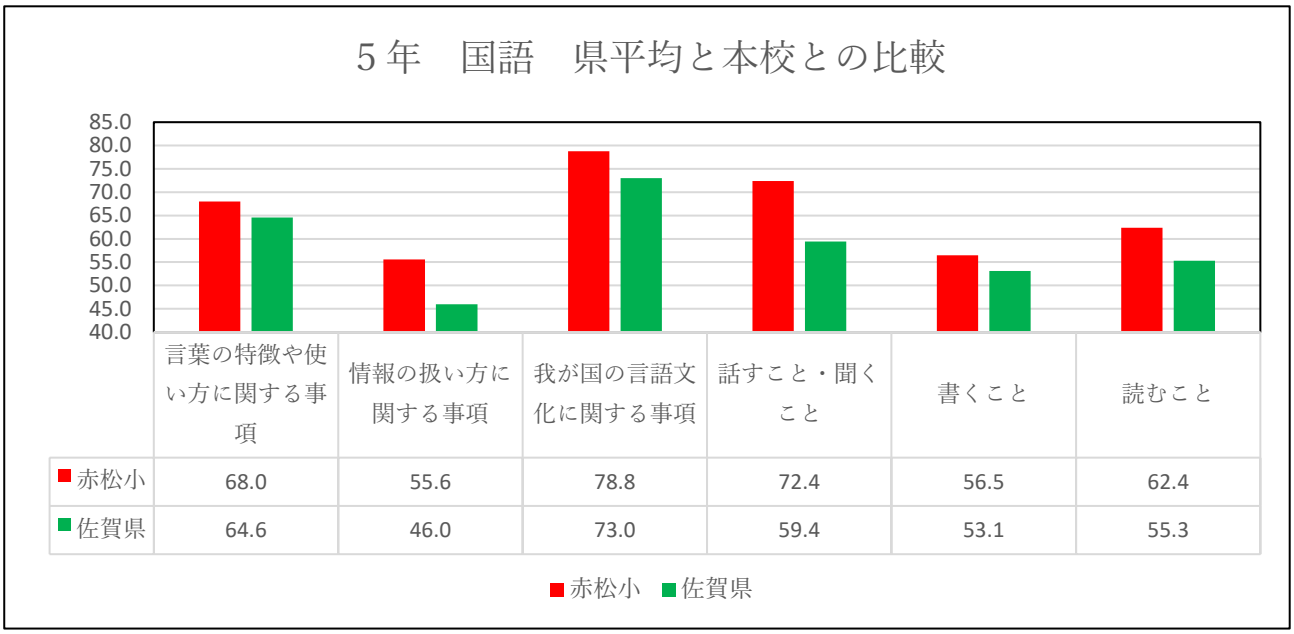
１　国語

＜全体正答率＞

	本校	佐賀県	全国
６年生	７５	６６	６７．７
５年生	６６．９	６０．８	―

＜領域別＞





（１）結　果

６年生、５年生ともに全体正答率では、全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。領域別に見てみると、全国調査の「話すこと・聞くこと」については、佐賀県平均正答率、全国平均正答率を 10 ポイント以上上回る結果でした。しかし、全国調査の「情報の扱い方に関する事項」については、わずかながら佐賀県平均正答率、全国平均正答率に届きませんでした。また、思考力・判断力・表現力を問う記述式の問題では、無回答率が全国・佐賀県の平均と比べて低い結果でした。

（2）成果と課題・手立て

知識及び技能（言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項）

多くの問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題に課題があったことから、説明文など異なる文章を比較しながら読むことを通し、要旨をまとめ、語句の表現の共通点や相違点を見つけられるような学習を仕組んでいきます。言語に対する知識は多くの問題で高い正答率でした。さらに語彙を増やし言語生活を豊かにするために、日常的に読書に親しむために個々の読書量を増やす取り組みをさらに強化していきます。

話すこと・聞くこと

全ての問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。目的をもってコミュニケーションを図ることを意識させる指導の積み重ねが生きていると思われます。いろいろな施設の見学やゲストティーチャーを招いたりしてインタビューをすることやグループでの話合い活動、学級会など、話し合うことを取り入れた学習を今後も継続して行っていきます。

書くこと

全ての問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。しかし、定められた条件や字数に合わせて文を書くことに若干の課題が見られます。全学年において、条件作文やキーワードを使った学習のまとめを書かせる指導に取り組んでいきます。

読むこと

全ての問題で佐賀県・全国平均を上回っています。「知識及び技能」でも記述したように、読書に親しむことへのこれまでの取り組みの成果だと言えます。これからも読書を奨励し、読むことの楽しさや大切さを指導していきます。

（3）　学力向上のための取り組み

【学校では】

○　子どもの主体的な学びにつながるよう、子どもに応じた学習（個別最適な学び）や、子ども同士の話合い（協働的な学び）を取り入れた学習に取り組んでいきます。

○　書くことについては、条件作文を書かせたり、目的に応じた振り返りを書かせたりする学習を授業に取り入れます。目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。

○　読むことについては、目的に応じて文章の内容を要約し、自分の考えをもつことが求められます。作品の主題を読み取ったり、筆者の主張を読み取ったりする指導を積み重ねていきます。

○　話すこと聞くことは、自分の考えを発表したり、友達の意見を考えながら聞いたりする機会を国語やその他の教科でも設けます。また、授業の終わりに授業のまとめや感想、気付いたことなどを発表する場の設定を行います。

○　テスト等での間違いを、確実に直させ、復習につなげていきます

○　タブレットパソコンを活用し、週１回のスキルタイムの時間のドリル学習や、２学期以降自宅に持ち帰って宿題（Ｅライブラリー）に取り組んでいます（４年生以上）。

【ご家庭では】

○　全ての学年で音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。声を出して文章の内容を意識しながら音読をすることで、文章への理解が深まり、様々な表現方法や語句も身に付けることができます。全教科における学力向上の基盤となります。

○　レインボー週間をきっかけとして、家族で本を読む時間を積極的に設けましょう。読書を通して、知識や想像力を豊かにし、知識の幅を広げることができます。また、家族での読書によって、お互いに会話する機会も増えます。１日 10 分程度、時間を見付けて読書をしましょう。

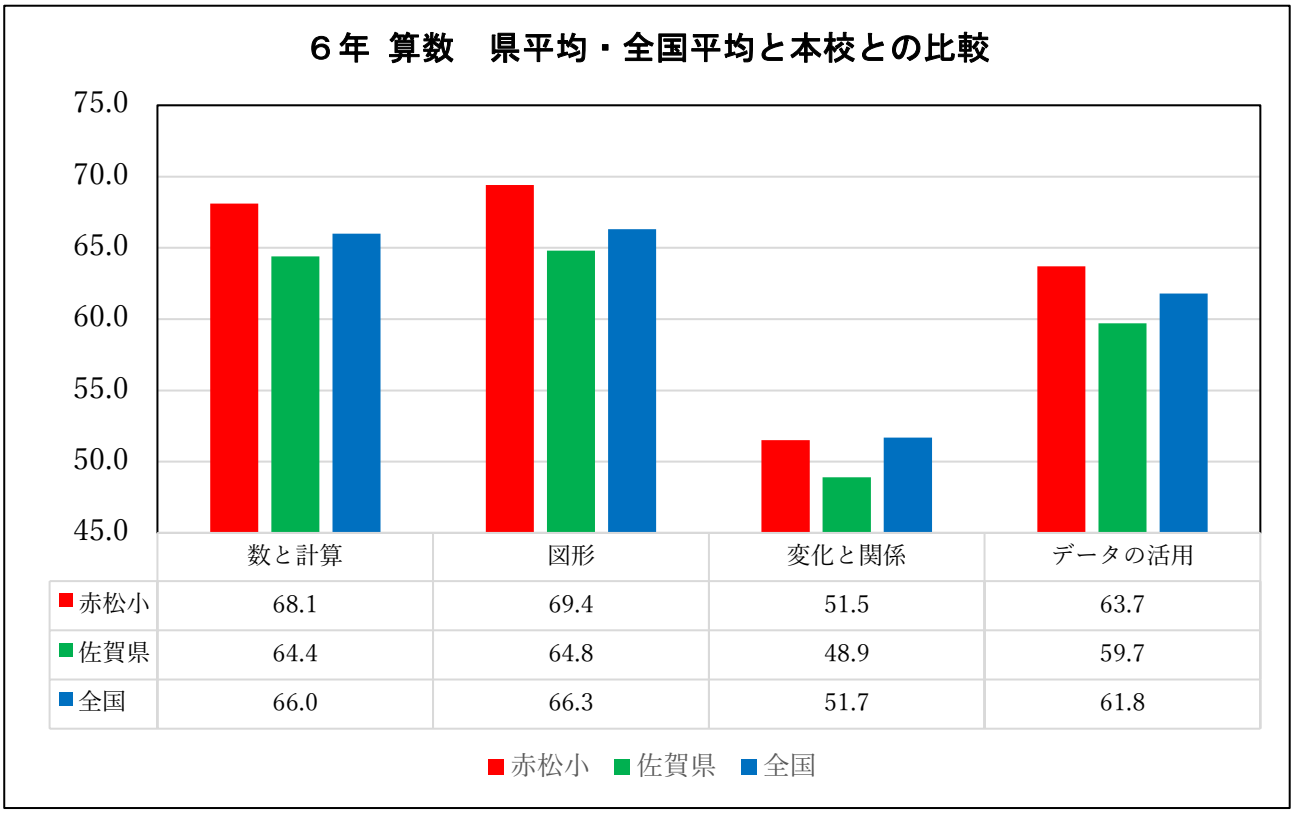
○本（教科書含む）や新聞、テレビ等で新しい言葉に出会ったら、辞典で読み方や意味を調べるように声をかけて下さい。必要に迫られて覚えた言葉や漢字は、すぐに自分のものになります。また、習った漢字は日常的に日記や文章で書くよう、言葉かけや称賛をお願いします。

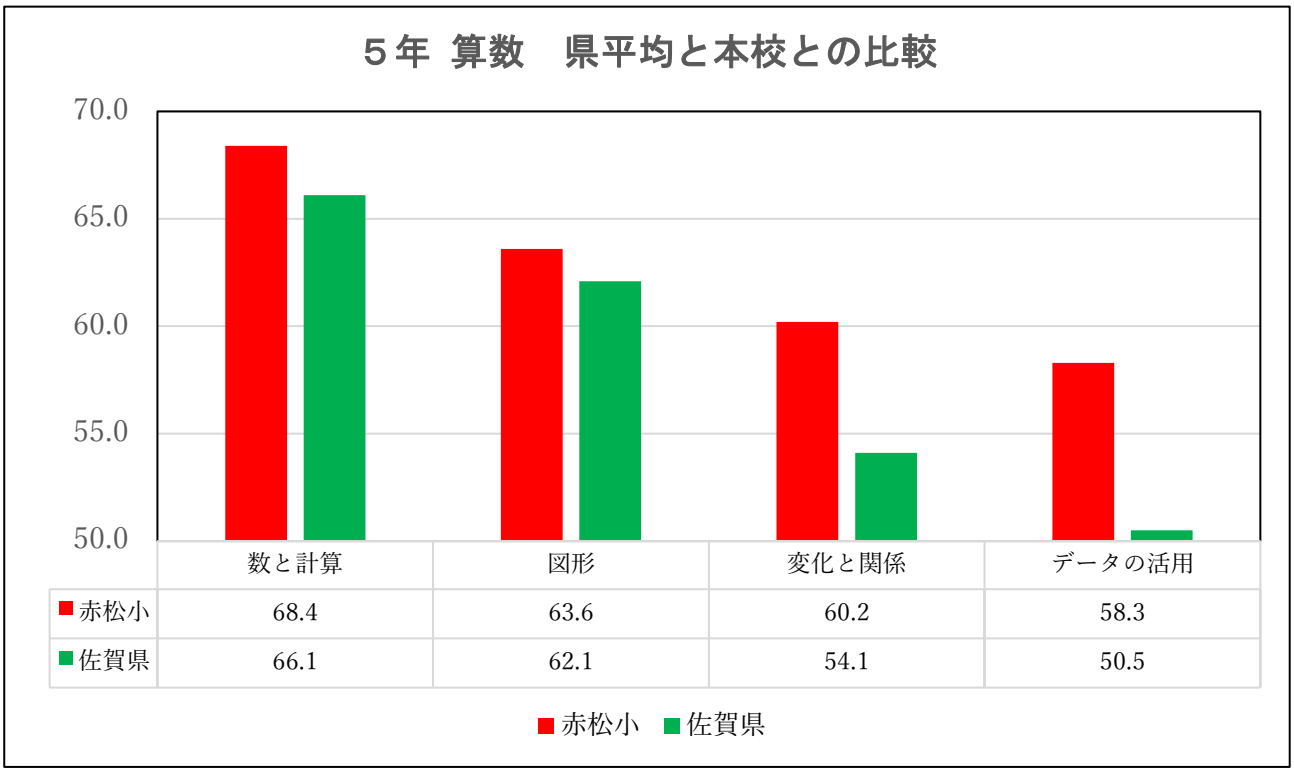
２　算数

＜全体正答率＞

	本校	佐賀県	全国
６年生	６５	６２	６３．４
５年生	６４．６	６１．１	―

＜領域別＞





（1）結　果

国語と同様に、全体正答率では全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。しかし、領域別に見てみると、「変化と関係」は佐賀県平均正答率は上回ったものの、全国平均正答率には、わずかに届きませんでした。結果グラフには現れていませんが、本校の課題として、学力の二極化があげられます。四則演算、公式の理解などの基礎基本の力の定着に個人差がみられると考えられます。

（2）成果と課題

数と計算

多くの問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。しかし、全国調査において、割り算の問題で、除数が 1/10 になったときの商の大きさについて求める問題で、佐賀県平均正答率と全国平均正答率をわずかながら下回りました。数と計算の学習には系統性があります。そのため、前の学年までに学習したことは次の学習につながっていきます。本校では、四則計算等の基礎基本の定着が図られるような指導を行います。また、タブレットＰＣを使って、前年度までの学習の復習を行います。

図形

多くの問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。しかし、全国調査において、五角柱の面の数とその理由を記述する問題で、佐賀県平均正答率と全国平均正答率を下回りました。平面や立体の特徴を捉えさせるように、コンパスや分度器などの算数用具を使う機会を増やしたり、タブレットＰＣを使ったりして指導していきます。

変化と関係

多くの問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。しかし、全国調査において、全国平均正答率にわずかに届きませんでした。該当する３つの設問のうち、「等しい道のりを歩くのにかかった時間の違いから二人の人物の速さを判断し、そのわけを書く」という記述式の問題の正答率が低いことが分かりました。「道のり÷時間＝速さ」の公式から正しい答えを求められていないことと、理由をきちんと説明できていないと考えられます。数直線等を使って変化する数を求める指導を、今後も継続していきます。

データの活用

多くの問題で全国・佐賀県の平均正答率を上回っています。しかし、全国調査において、二次元表を読み取り、必要なデータを取り出して分類する設問で誤答が見られました。必要な情報のみを収集すること、目盛りを読むこと、変化について読み取ること等ができるように指導をしていきたいと思います。

（3）　学力向上のための取り組み

【学校では】

○　子どもの主体的な学びにつながるよう、子どもに応じた学習（個別最適な学び）や、子ども同士の話合い（協働的な学び）を取り入れた学習に取り組んでいきます。

○学力の二極化に対応するため、３，４年生で指導方法改善教員と連携した指導を行っています（ティーム・ティーチング）。また、１つの学級を、等質や習熟度別に分けて学習したり、複数の教師で指導したりして、より一層、個に対応した指導方法の改善に努めます。５，６年生では、子ども同士で教え合う学び合いの学習を進めていきます。また、さらに個別最適な学びを実現していくために、いくつかの単元で「指導の個別化」や「学習の個性化」を図るために、子供が自分の興味・関心に応じて、学習課題を自身で決定し、進めていく学習にも挑戦させていきます。

○様々な見方や考え方ができるように、友達と話し合う活動を取り入れます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。友達と考えを紹介し合うことで自分の考えを確かめ、広げたり深めたりするようにしていきます。

○　テストでの間違いを、確実に直させ、復習につなげていきます。

○　タブレットパソコンを活用し、週１回のスキルタイムの時間のドリル学習を行っています。また、２学期以降４年生以上はタブレットを自宅に持ち帰って宿題（Ｅライブラリー）に取り組んでいます。

【ご家庭では】
○　お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
○　復習の一つとして、一度間違った問題を中心に再度解いてみるなど、自学としても取り組んで欲しいと思います。
○　算数を好きにするには、「学んだことが生活の中で使えて、便利だな、おもしろいな」と実感する経験をさせることが大切です。生活の中で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水の量（かさ）」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、日常の中で量感を養うことができます。
○「３割引きしたら、いくらになる？」「330 円と 680 円を合わせたら、おおよそ 300 円と 700 円になって、約 1000 円ぐらいの支払いになるね」等の話をすることで、算数と生活とが結び付いていきます。算数に対する興味・関心の高まりが学習意欲の高まりにつながっていきます。

3　学習や生活に関する調査（全国調査：６年生のみ）

（1）結果（あてはまる、どちらかといえばあてはまる、合わせて数値化）

調査項目	本　校(%)	全国平均(%)
①人の役に立つ人間になりたいと思うか。	93.5	95.9
②友達関係に満足しているか。	93.5	91.1
③自分で学び方を考え、工夫することができているか。	84.1	80.7
④新聞を読んでいるか。	16.7	11.6
⑤英語の勉強は大切だと思うか。	98.1	92.1

①では、全国平均よりわずかに低いですが、人の役に立つ人間になりたいという気持ちをほとんどの子どもたちがもっていることが分かります。
②では、様々な活動を通し、学校生活における友達との関係は、概ね良好であることがうかがえます。
③では、難しい学習問題に対して、何とか自分で考えて、工夫しながら答えを導こうとする自力解決の意欲が育っている児童が多いことが分かります。
③　では、昨今、大人も子どもも文字離れが進む中、新聞に目を通す児童も少なからずいることが分かりました。実際、地方紙の読者の意見コーナーに投稿し掲載される本校の児童もいます。普段から読書に親しんでいることが新聞という読むメディアに対しても抵抗なく読もうとする様子がうかがえます。
⑤では、外国語活動で学ぶ英語への興味、関心は全国平均と大きな差はありません。しかし、将来、さらに国際化が進展する中で、その必要性を感じていることがうかがえます。

（2）改善に向けての取り組み

【学校では】
○　日常のリズムを整え、学校生活を楽しく過ごせるよう、子どもたちに「出番、役割、承認」で、自己肯定感を高める指導を続けていきたいと思います。委員会や学校行事、道徳の授業などを有効に活用していきます。
○　外国語活動や外国語の授業を通して、海外への興味関心を高められるようにします。また、地域行事への参加を呼びかけ、ふるさと赤松を大切にする子を育てていきたいと思います。

【ご家庭では】
○　本校で取り組んでいる「レインボー週間」の「レインボーファイル」は、小学校６年間の学びの足跡になる大切なものです。児童への励ましの言葉が意欲につながります。生活リズムを整え、学習に迎えるよう、励ましのお声かけをお願いします。
○　地域行事への参加を呼びかけたり、新聞や報道等で海外の様子について触れたりする機会を設けたりして、広い関心をもてるよう、お声掛けをお願いします。